

# 黄色いマンション の住民たちの同調

※この作品は著者の想像などから作ったフィクションであり、内容などは架空のものです。

どでかく・・・まるで銀河のように大きな空想にと  
らわれて

朝慌ててバッグを駅の構内に忘れてしまった。

取り戻すのに電話をかけ、とても時間を使った。

.....○

.....○

その大きな空想は、

自分が住む黄色い壁のマンションの

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございます。  
した。